

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市長嶺東3丁目3-70		
自己評価作成日	2011/09/16	評価結果市町村受理日	23年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成23年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ホームの近くに小学校もあり、登下校時や運動場での活動時に児童の声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。毎月、入居者お一人々のホームでの生活を「ひまわり通信」にてご家族へ安心をお伝えしています。家庭菜園もあり、好きな方は楽しむことが出来、収穫のときにはみんなで喜びあって季節の食べ物を食しあっています。職員の元気も大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族との信頼関係を構築し、共に入居者の今を支え、管理者を中心に毎年一つひとつバージョンアップすることを目標としている。今年度は、職員の自己評価を行うことで自身を知り、チームで作る介護計画に力を入れ、職員も的確な支援と穏やかに一人ひとりの思いに応えるケアを実践している。又、認知症状の進行防止を研究している有識者の依頼を受け、入居者・家族へも説明を行い現在ホーム全体で協力している。この事は職員が自ら考え行動する介護力となって表れている。高齢者に寄り添い支援する為に必要な“センス”について熱く語る管理者の姿に、“グループホームひまわり園”がこの介護の世界に大きく貢献していきと思われる。職員と入居者の信頼関係が自然に伝わる温かいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「スマイルライフ」を職員理念に掲げ、運営理念を基本に日々取り組んでいます。	職員は日々理念と向き合い、「スマイルライフ」の言葉のもつ意味“笑顔をたやさない介護支援”にプロの意識を持って取り組んでいる。入職時や入居時にそれぞれの職員や家族に説明を行い、運営推進会議の中でも参加者に紹介をしている。年度末に一年の評価を行い全職員で次年度に向けた年目標を決定し、理念と共に介護の規範となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の勉強会や行事への参加案内をしています。勉強会へはご家族、夏祭りでは地域の方々の来園もありました。	階下の多機能事業所との合同夏まつりには、職員が地域へ参加を呼びかけ雨の中ではあったが近隣住民やボランティア、家族の協力により入居者も満面の笑みで参加されている。定期的な“カットボランティア”や“お話しボランティア”の訪問も入居者にとって楽しみひとときになっている。専門学校や高校で福祉を志す学生を積極的に受け入れ、管理者は実習の中で、学生の質問や疑問に答えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティア活動として施設にいられた方又は実習生に対し時間を取り、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度での問題点等を会議の場で検討しアドバイスを受けています。	運営推進会議は定例化しており、包括センターや地域代表、他の施設職員や家族等が参加している。会議の中で車イス体重計の必要性について参加者と協議し公的資金を利用して購入に至っている。ホームの活動報告や検討した課題内容を議事録にまとめ一階ホールに開示している。	今後更に会議の充実を図る為、固定化された家族以外への参加の打診や、職員も交代で会議を経験する事で広く情報を収集し職員育成にも繋がるものと思われる。検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時のみ連絡を行っています。	管理者は、相談や質問等で市担当者と連絡をとり運営推進会議や外部評価結果について報告を行っている。グループホーム連絡協議会の研修に参加し研修内容を職員間で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止と身体拘束についての認識を深めた。	職員は身体拘束について、マニュアルや内・外部研修を通じ正しく認識している。又、入居者に対するスピーチロックの弊害についても同様に理解し拘束のない穏やかな日常を継続し支援している。入居間もない車イス利用者の状態観察により、車イスの必要性がないと判断し、自力歩行による支援に切り替え、本人の自信や家族の喜びに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止についての認識を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護に関する資料を使い、確認しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見は箱を入りの少ない場所に設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来ることは対応しています。	利用者の意見や要望は日常の関わりの中で聞き入れ、家族からは訪問時や電話など状況に応じ対応している。家族が訪れやすいホーム作りや出された意見に対しては、早急に話し合いできる対応を話し合っている。入居時にホーム内外の相談窓口の説明を行う他、意見箱も気軽に利用できる場所に設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。	代表者や管理者は日頃より、職員が意見や提案を出しやすい会議を心がけ、月に一度の職員会議の中で意見の収集や検討を行っている。職員の意見や要望を反映し、入居者の楽しみに繋がるDVD機器の買い替えの予定や、性能を重視した掃除機の購入等が行われている。管理者は職員の働きやすい環境整備にも心を配り、自ら朝のホーム内に掃除機をかけ、職員と同じ目線での支援に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の見直しを行ったり、介護職員改善交付金を取り入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員を設け、その委員を中心に定期的な勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修で他施設との情報交換を含めた勉強会に参加しています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言動や行動に注意をはらい、不安の除去に努めています。又、職員会議にて介護の心構えとして利用者の方の心理を含めた勉強をしました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、生活状況、健康状態を伝え、必要な支援や相談を行っています。又、ひまわり通信にて、ご家族へのコメントを入れ情報提供を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を傾聴し、ご利用者様中心の支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり、食事の準備や後片付けを行っています。時にはおやつ作りも一緒に行っています。又、ご利用者様の誕生日には、他のご利用者様と一緒にケーキを作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況をその都度家族に伝え、情報の共有を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の習い事での友人等が来園された際には、写真を一緒に撮り、その頃の思い出話をしたり、アルバムを開き、ご利用者からの話を傾聴しています。又、ご兄弟の面会に入居者様と訪問もしました。	家族や知人の訪問、墓参や彼岸などの節目の帰省や、兄弟との面会など大切にしてきた方々との関係が継続できるようにしている。又、一人ひとりの馴染みの品々(キーボード・家具・食器など)を身近に揃え安心して生活できるように家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の特技を活かし、その都度中心となる方が変わり、参加の意向を聞きながら時には個別で行い、時には全員参加でレクやゲームを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	月に1回又は2ヶ月に1回のひまわり通信を家族へ発行しており、施設での様子を写真で伝えるほか、必要時にはその都度連絡を行っています。又、退去後も面会に行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者や家族の意向を取り入れ、ケアプランの作成を行っています。状況次第では、その都度ご家族への連絡相談を行い対応しています。	職員との日ごろの会話や入居者の様子から思いを汲み取ったり、家族の面会時に入居者の思いや要望を聞き取り本人の意向と一緒に確認しプランに反映させている。入居者の要望を受けお城見学が近々計画されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族等との会話から、情報を得ようと努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、カンファレンス等を行い、その方自身の情報を各スタッフで共有する様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。必要に応じては、数回の話し合いを行っています。	管理者はホームが四年目を迎えるにあたり全ての面でバージョンアップを目指してきたが特に、介護計画に力を入れ取り組んだと語っている。一ヶ月ごとの評価を担当職員が赤字で表記することで継続すべき事や課題点を職員自身がしっかりと把握し、全職員が共有しながら支援している。管理者は環境整備の為に毎朝の掃除機かけ一つからでも、夜間帯の入居者の状態が伝わり、おのずと声かけや対応がわかってくると話している。プランの説明も家族に対して毎回分かり易く行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等柔軟に行う様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時にはご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛ける時もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	入居時にこれまでのかかりつけ医を支援することを説明している。受診は基本的に家族対応とし、ホームより電話連絡や情報提供書を作成している。協力医の場合はホームへの往診が行われている。職員の気付きや家族との連携により健康を管理し、入居者の異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護師が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、他の関係部署(例:リハビリや栄養課)等からの情報交換や相談を行っています。その都度、サマリーを作成し提出しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、実施していません。	現時点ではホームのできる対応まで支援し、医療行為の頻度が多くなった場合を退所の目安としている。日々を共に過ごす職員は、入居者の思いを大切に職員会議やカンファレンスの中で対応を共有し、出来る支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練や、非常時の電話連絡訓練を行っています。	年二回昼・夜を想定し、総合・避難訓練を実施し、訓練後の反省を次回に活かしている。訓練の様子は写真と併せ記録に残し、運営推進会議の中でも議題に挙げている。防火管理者による月一回の点検表へのチェックや、二名の防災対策委員の配置、日誌に最終火元確認項目を設け意識付けを行うなど、新しい取り組みや改善が図られている。	今後も地域との協力体制や備蓄の準備、地震や風水害など災害対策についての話し合いを行い訓練の実践に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフはご利用者様がお元気な頃の仕事やその時の地位、立場等を把握しており、その方にあった言葉かけを行う様に対応しています。	入居者一人ひとりの生活歴や思いを全職員で共有し、尊厳のある対応に努めている。居室入り口は戸を閉めたり、暖簾を使用するなど、個々に応じ支援している。トイレ内が見えないよう、すりガラスに張られ掲示物も職員のアイディアが活かされている。プライバシーに配慮し面会簿も個別に用意され、重要書類は一階事務所で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各スタッフはご利用者様に日々対応する中で、本人の意向を確認しながら対応する様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分やペースを尊重しながら支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂きたいと思います。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭きとりを一緒にやっています。	業者による献立や調理食をベースに主飯や汁物等をホームで調理している。職員手作りの誕生会ケーキでお祝いしたり、入居者と一緒に恵方巻きやお月見団子を作り、季節を味わっている。調理への参加は困難になってきているが、味見や盛り付け、茶碗拭きなどできる事を支援している。職員の持参した季節の花が香る中、味や量の確認を兼ね検食や持参した弁当を見守りや介助を行いながら職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲みたい物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、入れ歯の方は週2回ポリドントに浸ける様になっています。又、磨き残しがある場合は介助にて対応し口腔内洗浄用のブラシ使用し対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を利用し、定時誘導やその時の状況に応じて誘導と付き添いを行っています。	個々の排泄パターンにより日中はトイレでの排泄支援に努め、夜間も安眠や安全面からトイレやポータブル・オムツなど入居者に応じた支援している。職員間で情報を共有し状況に応じた排泄用品を使用する他、腸内環境の改善に努め、トイレでの排便に繋げるなど自立や気持ちの良い排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操や運動を行う外、食物繊維の多い食品や、十分な水分摂取が取れる様に対応しています。又、家族と相談し、ヤクルト等の個人購入にて便秘予防に協力依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中ではありますが、その都度ご利用者様の意向を伺い入浴時間を柔軟に設定しています。又、季節行事の中で柚子湯や菖蒲湯も取り入れています。	週三回～四回の入浴を午前・午後、入居者の希望や状態に応じ支援し、拒否の方へもタイミングや職員の誘導により週二回の入浴支援により清潔保持に努めている。入浴ごとに湯を入れ替え、ゆっくりと湯船で入浴を楽しんでもらう事を心がけ、浴室内や脱衣所の掃除や室温管理にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご利用者様の決定にて入眠を促したり、その日眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解出来る様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜の収穫やご利用者様の特技をいかした対応やアドバイスを受け、一緒に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事を取り入れる中で、施設外での企画も行い、その際に家族への参加も声かけを行っています。	天候や入居者に応じ敷地内の庭やリビング・ホールから続くデッキを散歩している。季節の花見ドライブの他、地域ボランティアの協力を得て、夏まつりや地域の花見会(桜)に参加したり、ホームを訪れた例大祭馬追い見学、家族と一緒に植木市に出かけるなど、外出支援の様子が記録や写真より確認された。	入居者の日常的な外出や趣味の支援として、事業所玄関先に季節の花苗をプランター等で育てる事も入居者のみならず、来訪者の楽しみに繋がって行くと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、園外行事等の際にご利用者様の買いたい物を選んで頂き、スタッフが買い物の対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来る様、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ペランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子ども達の声が聞こえる環境です。施設の畑もあり、畑作業が好きな方は水やりや草取り、収穫の作業をされています。	圧迫感のない吹き抜けのホールを活かし、緑の観葉植物の設置や季節毎の行事や外出など入居者の日常の写真が定期的に掲示されている。ある程度歩いたら座れる位置にイスを設置したり、外出時に自分の髪型や衣服を確認できる姿見の設置、寛ぎながら新聞や趣味の楽器(シンセサイダー)を楽しめる空間など入居者の思いを反映した共用空間である。生ゴミボックスや洗濯機内の掃除も定期的に行い、臭気対策や衛生管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳の場所やソファを設置しペランダにはベンチを置いて好きな場所が利用出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、ダンス、写真等自宅にあったなじみの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	家族の協力により馴染みの品々が持ち込まれた居室は、日々の換気や週二回の掃除をはじめ、必要に応じた居室の整理が行われ清潔に保たれている。ADLに応じ本人が落ち着ける位置に家具や物品を移動したり、居室入り口には家族の選んだ暖簾がさげられたり、職員による個別の飾り物など双方の協力により居心地の良い部屋となっている事が、部屋で寛ぐ入居者の表情からも窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、畳の場所以外はすべてバリアフリーになっています。		